

所得稅法外十六法律中改正法律案特別委員會議事速記第四號

付託議案

○所得稅法外十六法律中改正法律案

○地方稅法及地方分與稅法中改正法律案

案

昭和二十年二月四日(日曜日)午前十一時一分開會

○委員長(伯備林傳太郎君) ソレデハ委員會ヲ開會致シマスガ、初メニ、御質問ノ前ニ地方稅法及地方分與稅法中改正法律案ト現行法トノ對照ニ付テ、當局カラ御説明ヲ願ヒタイト思ヒマス

○政府委員(藤尾弘吉君) 御手許ニ差上ゲテ居リマス。地方稅法及地方分與稅法中改正法律案ト現行法トノ對照ト云フ印刷物ガゴザイマス、之ニ從ヒマシテ、改正法律案ノ内容ニ付キマシテ御説明申上ゲルコトニ致シタイト存ジマス、既ニ大臣ヨリ御説明申上ゲマシタコトト重複シテ申上ゲルヤウナコトモ、或ハアルカト存ズルノデゴザイマスガ、御了承願ヒタイト思ヒマス、先ヅ地方稅法第六十六條第二項ノ改正デゴザイマスガ、是ハ市町村民稅ノ賦課總額ノ限度ヲ五割引上ゲヨウトスルモノデゴザイマス、即チ市町村民稅ノ納稅義務者一人當リノ平均賦課額ハ、人口七十萬以上ノ所謂大都市デハ八圓、其ノ他ノ市デハ六圓、町村デハ四圓ト相成ツテ居リマスノヲ、ソレハ、十二圓、九圓、六圓ニ引上ゲムトスルノデアリマス、其ノ理由ト致シマシテハ、御承知ノ通りニ本年度カラ地方ノ物稅デアリマス所ノ地租、家屋稅及營業稅ニ付キマシテ、増稅ガ實施セラレ

タノデアリマスルガ、地方ノ人稅タル性質ヲ持ツテ居リマス所ノ市町村民稅ニ付キマシテモ、此ノ際ニ之ニ準ジテ其ノ賦課總額ノ限度ヲ引上ゲマシテ、地方稅全體ノ上カラ申シマシテ、合理的デアルト考ヘラレマスル點ガ第一點デゴザイマス、國民所得ノ増加乃至市町村經費ノ膨脹等ノ狀況ニ鑑ミマスル時ニハ、之ヲ引上ゲマシテハ、市町村民ガ市町村ノ負擔ヲ分任スルト云フ、地方自治ノ根本理念ヲ稅制ノ上ニ現ハサウト云フ趣旨ヲ以テマシテ創設セラレマシタ市町村民稅ノ本質ニモ合致スルモノト考ヘラレル次第デゴザイマス、而シテ又之ニ依リマシテ、市町村民稅ノ若干ノ増收ニ依リマシテ、今日増嵩シツ、アル地方財政需要ノ充足ノ一助ニモナラウカト考ヘル次第デゴザイマス、之ニ依リマシテ、市町村ハ新タニ約四千萬圓ノ財源ヲ得ルコトト相成ルノデアリマシテ、現在大體八千萬圓ノ收入ヲ擧ゲテ居ルノデアリマスルガ、合計致シマスルト一億二千萬圓ノ收入ト相成ラウカト存ジテ居リマス、尙御手許ニ差上ゲテ居リマス地方分與稅法關係法規ノ最後ノ所ニ甚ダ御覽ニタイカト存ズルノデアリマシテ、ガリ版刷ノ地方稅法ヲ拔萃ラ付ケテ居ルト存ジマスガ、其ノ第六十六條ノ第一項ニ規定致シテ居リマスル通りニ、市町村民稅ニ付キマシテハ、御承知ノ通り平均額ノ、平均ノ限度以外ニ、納稅義務者一人ニ對スル最高賦課額ノ限度ヲ規定致シテ居ルノデアリマシマス、即チ大都市ニ於テハ二千圓、

都市ニ於テハ千五百圓、町村ニ於テハ千圓、斯ウ云フ風ニ定メテ居ルノデアリマスルガ、此ノ制限ニ付キマシテハ、今日迄重要所得稅其他ノ國稅ノ増徴ガゴザイマシタシ、又國民所得ノ分布ノ現況、或ハ市町村民稅創設ノ趣旨等ニ鑑ミマシテ、一人當リノ限度ハ、此ノ際ニ引上ゲナイコトト致シマシテ、其ノ儘ニ據エ置イテアルノデアリマシマス、次ニ地方分與稅法第二條第二項、ソレカラ第六條第一項、更ニ一番最後ノ所ニ第四十七條第一項及第三項、第四十八條第二項及第三項ノ改正ニ付テ御説明申上ゲタイト存ジマス、是ハ配付稅ノ繰入率及分與率ヲ改定セムトスルモノデゴザイマス、御承知ノ通り所得稅及法人稅並ニ入場稅及遊興飲食稅ノ徵收額ノ一定割合ヲ以テ配付稅ト致シマシテ、之ニ地方財源ノ地域ノ偏在ヲ調整スル働キヲ持タセテ居ルノデアリマス、サウシテ第二條第四十七條ノ規定ハ、毎年度配付稅トシテ一般會計カラ地方分與稅分與金特別會計カラ、各地方團體ハ分與スベキ額ヲ定メテ居ルノデアリマシマス、前者ノ國稅ニ對スル割合ガ所謂繰入率デゴザイマス、後者ノ國稅ニ對スル割合ガ所謂分與率デゴザイマス、配付稅ノ額ハ國稅ノ徵收額ノ一定割合デゴザイマス爲ニ、國稅ノ徵收額ガ確定致シマセト、確實ニ總額ガ分リマセヌノデ、國稅ノ決算ガ確定シタ後ニ、

地方團體ヘノ分與額ヲ決定スルト云フコトニナリマス、更ニ又地方團體ニ對スル配付稅分與額ハ、其ノ當初豫算編成前ニ決定スルコトヲ適當ト致シマス關係上、毎年度地方團體ニ分與スベキ配付稅ノ額ハ、第六條第一項ニ規定致シテ居リマス通り、前々年度ニ於テ徵收シタ國稅ノ一定割合ト云フコトニナツテ居ルノデアリマス、即チ毎年度ノ國稅徵收額ノ中、配付稅トナルベキ額ハ、二箇年後ニ地方團體ヘノ分與額トナツテ行クト云フ建前デアリマシテ、從ツテ配付稅ノ繰入率ト分與率トニハ、概ネ二箇年度ヅ、ノ食ヒ違ヒガアル譯デゴザイマス、而シテ今回配付稅ノ繰入率ト分與率ヲ改定セムト致シマシタノハ、先ヅ第一ニ、曩ノ決戰非常措置ニ依リマシテ、高級享樂ガ停止セラレマシタコトハ御承知ノ通りデゴザイマスガ、此ノ高級享樂ノ停止ニ伴ヒマシテ遊興飲食稅ノ減收ヲ來シ、同稅カラノ配付稅收入ニ減收ヲ見ルト云フヤウナ事態ト相成リマシテ、昭和十九年度ニ於テ二千六百萬圓、昭和二十年年度以降ニ於テ、毎年度三千百萬圓ヲ對象ニ、入場稅及遊興飲食稅ヨリノ配付稅ノ繰入率ト増率スルコトト致シマシテ、配付稅額ノ増加ヲ圖ルコトト致シマシタノデアリマス、又第二ニ、御承知ノ通りニ、先般國ノ方針ト致シマシテ、下級職員ノ給與改善ノ方途ヲ講ズルコトト相成リマシタノデアリマスガ、此ノ國ノ施策ニ伴ヒマシテ、地方團體ノ職員ノ給與ニ付キマシテ、改善スルコトト致シマシタノデアリマス、

此ノ職員ノ給與改善ニ要スル經費ノ中、地方純負擔ノ一部ハ國庫デ負擔スルコトニ致シテ居リマス、地方純負擔ノ全部ヲ配付稅財源ヲ以テ充足スルト云フヤウナ事由ノ爲ニ、約一億五千萬圓ノ所得稅及ビ法人稅並ニ入場稅及遊興飲食稅カラノ各配付稅收入額ニ按分致シマシテ、配付稅額ノ増加ヲ圖ルコトト致シマシテ、ソレハ、繰入割合ト増率スルコトト致シタノデアリマス、サウシテ右ノ兩者ヲ併セ措置致シマスルト共ニ、之ニ伴ヒ當然必要トスル分與率ノ改正ヲモ同時ニ行ツタ譯デゴザイマス、尙配付稅ノ繰入率及分與率ノ算定ノ對象デアリマスル所ノ國稅收入見込額ニハ、増稅ニ依リ増收ノ平年度化致シマスル迄毎年度若干ノ相違ガゴザイマスノデ、以上ノ理由ニ依リ改定致シマシタ配付稅ノ繰入率及分與率ニモ、數年間ハ若干ノ相違ヲ來スノデアリマス、第二條及第六條ハソレゾレ平年度ノ繰入率及分與率デゴザイマシテ、第四十七條及第四十八條ハ經過期間中ノ繰入率及分與率デゴザイマス、次ニ第十條ノ改正デゴザイマスガ、是ハ配付稅ノ道府縣分市町村分ト割合ヲ改定セムトスルノデアリマス、地方分與稅法制定當時、道府縣ト市町村トノ配付稅ノ割リ振リハ各、其ノ地方稅所要額カラ配付稅以外ノ新稅額ヲ差引キマシタ殘リ、即チ配付稅ノ所要額ニ基キマシテ道府縣分ハ百分ノ六十二、市町村分ハ百分ノ三十八ト定メラレタノデアリマスガ、其ノ後市町村財政ハ道府縣財政ニ比

較致シマシテ、相當窮屈デアル狀況ニ鑑ミマシテ、道府縣分カラ市町村分ニ一部移讓スルト云フ措置ガ講ゼラレマシテ、現行法ニ於キマシテハ六對四十ノ割合トナツテ居ルノデアリマス、併シ更ニ其ノ後昭和十八年度カラ國民學校職員ノ俸給及赴任旅費以外ノ諸給與ガ、又昭和十九年度カラ青年學校職員ノ諸給與ガ、市町村ノ負擔カラ道府縣ノ負擔ニ移管セラレマスト共ニ、同時ニ是等ノ職員ノ待遇改善等ノ措置ガ講ゼラレマシテ、結果、市町村ハ九千九百萬圓程度財源ニ餘裕ヲ得マシテ、半面ニ於キマシテ、道府縣ハ一億二千萬圓程度ノ負擔ノ増加ヲ見ルコトト相成ツタノデアリマス、斯様ノ關係ヲ逆ニ今度ハ道府縣財政ガ漸次窮屈ニナツテ參リマシタノデ、此ノ際配付稅ノ道府縣分ト市町村分トノ割リ振リ大體元ニ戻スノガ適當デハナイカト云フ風ニ考ヘラレタノデアリマス、之ニ加フルニ、先程申上ゲマシタ配付稅財源ヲ以テ取得スルコトニナリマシタ所ノ、地方職員給與改善ニ要スル地方純負擔ノ増加ノ狀況ヲ併セテ檢討致シマス、結局此ノ道府縣分ヲ百分ノ六十三、市町村分ヲ百分ノ三十七程度ニ改定スルノガ時宜ニ適シテ居ルノデハナカラウカト云フ結論ニ到達致シマシタ次第デアリマス、之ニ依リマシテ、市町村ヨリ道府縣ニ移讓セラレマス所ノ配付稅財源ハ、明年度ノ配付稅總額ノ百分ノ三三云フコトニシテ計算シテ見マス、約二千六百九十萬圓デゴザイマス、次ニ第十六條第二項、第二十四條第二項、第三十條第二項、第三十七條第二項ノ改正デゴザイマス、是ハ道府縣大都市、都市、市町村ノ各配付稅ノ分與基準ノ一ツデアリマス所ノ割増人

口ニ於キマシテ、人口ニ加算セラレマス所ノ一定數ヲ或程度增加セムトスルモノデアリマス、一例ヲ道府縣配付稅ニ取ツテ御說明致シマス、第十六條ノ第二項ノ規定、地方分與稅法第十三條ニ「道府縣配付稅ハ、之ヲ第一種配付稅及第二種配付稅ニ分チ、第一種配付稅ハ道府縣ノ課稅力ヲ標準トシ、第二種配付稅ハ道府縣ノ財政事情ヲ標準トシテ之ヲ分與」シタ、又第十四條ニ於キマシテハ、「第一種配付稅及第二種配付稅ハ、夫々道府縣配付稅總額ノ半額トス」ト云フコトニナツテ居リマス、此ノ中財政事情ヲ標準トシテ分與致シマス配付稅額ハ第十六條第一項ニ「アリアマヤウニ、人口ヲ基準ニ取ルノデアリマスガ、單ナル人口ニ按分致シマセヌデ、當該道府縣ノ割増人口ニ按分シテ之ヲ算定スルト云フコト」ニ相成ツテ居ルノデアリマス、其ノ割増人口ノ算定ハ、十六條ノ二項ニ規定致シテ居リマスルヤウニ、國民學校兒童數ノ人口ニ對スル比率ガ、全國平均ヲ超過致シテ居リマス、道府縣ニ付キマシテハ、ソレダケ教育費等ノ財政事情ガ嵩ム譯デアリマス、或程度人口ノ増加ヲ致シマス、外ニ道府縣平均人口ノ約二割ニ當ル所ノ三十萬ヲ一率ニ人口ニ加算スルコトニ致シマシテ、人口少數ナル團體ニ於キマシテハ、其ノ所要經費ガ人口ニ比シ割高ニナリマス點ヲ補ツテ居リマス、此ノ三十萬ト云フ一定ノ數ヲ今回改メマシテ、六十萬トシヨウトスルノデアリマス、即チ各團體ノ人口ニ一律ニ三十萬ヲ加算致シマス結果ト致シマシテハ、人口百五十萬ノ團體ハ二割増ト云フコトニナルノデアリマス、人口六十萬ノ團體ハ五割増ト云フ人口ヲ基準ニ配付稅分與スルコトニ

ナル、ソレダケ地方團體ニ有利ニナル譯デアリマス、其ノ割増定數ハ、從來大都市、都市、市町村ニ於キマシテモ、ソレノ平均人口ノ二割程度ニナツテ居ルノデアリマス、併シ課稅等ノ狀況ニ徴シマス、人口ノ少イ團體ニ於キマシテハ、人口ノ多イ團體ニ比較致シマシテ、尙其ノ財政狀況ハ可ナリ窮屈ノヤウデアリマス、更ニ二十年度カラ配付稅分與ノ經過年度ガ終了スルニ伴ヒマシテ、比較的小團體ニ從來多ク分與セラレテ居リマシタ新稅額ガ舊稅額ニ不足スル額ニ按分シテ分與セラレマス所ノ、所謂經過分與ガ消滅致シマス、一層此ノ傾向ヲ甚ダシクスルコトナルノデアリマス、尙又三收益稅增稅ノ結果、人口ノ多數ナル團體ニ財源ガ偏在スルト云フ結果ガ一層著シクモナツテ居リマス、此ノ際配付稅額ガ人口少數ナル團體ニ比較的多ク分與セラレマスヤウニ、右ノ人口割増ノ一定數ヲ增加スルコトガ適當ト認ラレレルノデゴザイマス、此ノ增加ニ際シマシテハ、人口ノ少數ナル團體程經費ガ割高ニナル傾向ガ強イ譯デアリマス、現在ノ割増定數ヲ町村ニ於キマシテハ二倍半、都市ニ付テハ二倍、大都市ニ於テハ一倍半、又道府縣ニ付テハ、都市ニ準ジマシテ二倍トセムトスルノデアリマス、第十六條ノ改正ハ、道府縣分ニ付テノ改正デゴザイマス、第二十四條ノ改正ハ大都市分、第三十條ノ改正ハ都市分、第三十七條ノ改正ハ町村分ニ付テノ改正デゴザイマス、次ニ第二十條第一項ノ改正ニ付テ御說明致シマス、是ハ市町村配付稅ノ大都市、都市、町村ノ分割方法ヲ改メムトスルモノデアリマス、市町村配付稅ヲ大都市、都市、町村ノ

三ツノ「ブロック」ニ分割致シマス、場合ニ、半額ハ課稅力乃至財政力測定ノ基準トシテ、三收益稅附加稅ノ人口一人當リノ額、即チ單位稅額ヲ標準ニ、半額ハ財政需要測定ノ基準ト致シマシテ、人口ヲ標準ニ分割スルコトト致シマシテ、第二十條第一項第一號ニ於キマシテ、配付稅ノ半額ガ單位稅額ニ對比シテ、分割セラレルヤウニ、又第二號例シテ分割セラレルヤウニ、又第二號ニ於キマシテハ、配付稅ノ半額ガ人口ニ比例シテ分割セラレルヤウニ規定セラレテ居ルモノデアリマス、此ノ後ノ方ノ場合、即チ財政需要ヲ標準ニ分割致シマス場合ニ、現在ハ單純ナル人口ニ按分シテ居リマス、先程御說明致シマシタ場合ノ如ク、各「ブロック」内ノ箇々ノ團體ニ對スル分與基準ノヤウニ、割増人口ニ按分スルコトニ改メヨウトスルノデアリマス、此ノ方ガ財政需要ニ應ズル分割ト致シマシテハ、ヨリ合理的ナルト考ヘラレマス、尤リ合理的ナルト考ヘラレマス、三收益稅增稅ノ結果、大都市、都市ニ財源ノ偏在スル傾向ガ一層強クナツテ居リマス、多少調節スルコトトナルノデアリマス、最後ニ字句ノ點ニ付キマシテ、一言申上ゲテ置キタイト思フノデアリマス、割増定數ノ改正ノ條項ノ所デ、第十六條ニ於キマシテモ、第二十四條ニ於キマシテモ、第三十條ニ於キマシテモ、ソレノ「前項」ト云フ字ヲ削ルコトニ致シテ居ルノデアリマス、妙ナコトヲ致シテ居ルヤウデアリマス、一應御說明申シマシテ、御了承ヲ願フテ置キタイト思フノデアリマス、是ハ今度第二十條ノ改正デ、此ノ第一號ニ「各總割増人口」ト云フ言葉ヲ用ヒルコトニ致シマシタノデアリマス、此ノ法律ノ中デ「割増人口」

ト云フ言葉ガ出テ來テ居リマス、點ガ、十六條ナリ二十四條ナリ三十條等ニ出テ居ル譯デアリマス、此ノ割増人口ノ說明ガ「前項」ト云フ言葉ガアリマス、ドウモ此處限リノ說明ト云フコトニナリマシテ、一般ニ通用シナイト云フ風ナ嫌ヒモゴザイマス、前項ノ「ト云フ言葉ヲ除リマシテ、道府縣ノ割増人口ト云フハ、人口三十萬ナリ、一定ノ兒童數ノ掛ケタモノ、加ヘタモノト云フ風ニ致シマシテ、何處ニデモ通用スルヤウニ致シタイト云フ、極メテ事務的ノ考デゴザイマス、其ノヤウナ考カラ致シマシテ、前項ノ「ト云フ言葉ヲ除リマシテ、之ヲ各總割増人口ト云フ場合ニモ通用シ得ルヤウニ致シマシタ次第デアリマス、御了承ヲ願フテ置キタイト思フノデアリマス、以上ガ改正案ノ要點デゴザイマス、之ニ依リマシテ今日極メテ增加致シテ居リマス所ノ地方財政需要ニ對シマシテ、財源確保ノ一助トモ相成リマス、又地方分與稅ガ廢、十九年度ヲ以テ經過年度ヲ終了致シマシテ、明年度カラ平年度ニナリマス、地方ノ現況ハドウモ財源ガ地域的ニ偏在致シマシテ、人口少數ナル團體ガ比較的窮屈ナ狀況ニアリマス、市町村ト道府縣ト大キク對照致シテ見マス、道府縣デハ段々ト窮屈ニナツテ參ツテ居ルト云フヤウナ實情モゴザイマス、ソレ等ヲ此ノ改正ニ依リマシテ修正シ得ルコトトモ考ヘラル、次第デゴザイマス、誠ニ不揃ヒナル御說明ヲ申上ゲマシタガ、一應御說明申上ゲマシテ、又御質疑ニ依リマシテ御答ヘ申上ゲタイト思ヒマス

○委員長(伯耆林博太郎君) 本多君トウゾ

○子爵本多忠晃君 私ハ第二種第三種配付額ニ付テ、御質問致シタイト思ヒマスガ、國民學校兒童ノ數ノ算定ニ付キマシテ、此ノ頃集團疎開兒童ガ各地ニ入ツテ居リマスルガ、其ノ兒童數ハ集團疎開ノ兒童數ガ其ノ人口ノ中ニ算定サレルノデアリマスルカドウデアリマセウカ、其ノ點ガ一ツデアリマス、

第二ハ矢張り疎開兒童ノ關係デ、特ニ溫泉地帯ニ於キマシテハ、入湯稅ガ非常ニ減額シテ、今迄其ノ地ノ主ナル收入デアツタ入湯稅ガ無クナツタ爲ニ、非常ニ市町村ノ財政ニ困難ヲ來シテ居ル所ガ多クアルヤウデアリマスガ、之ニ對シテ第三種配付額ヲ增加ナサル御意思ガアルカドウカ、勿論疎開兒童ニ付キマシテハ各人當リ何圓カノ補助ハアリマスルガ、ソレノミニ依ツテハ、

○政府委員(澤尾弘吉君) 御答へ致シマス、最近學童ノ集團疎開等ニ依リマシテ、學童ノ移動ガ可ナリ行ハレテ居リマスルノデ、地域のニハ急激ニ學童數ガ殖エルト云フヤウナ現象ヲ呈シテ居リマスルコトハ御指摘ノ通りデアリマス、之ニ付キマシテ、一例ヲ都市ニ取ツテ申上ゲマスレバ、斯様ニ移ツテ參リマシタ學童ノ數ガ、直チニ此ノ第一種配付額ノ分與ニ影響スルカドウカト云フ點デゴザイマスガ、當然ニハ影響シナイト思フノデアリマスガ、其ノ町ナラ町ノ人口ノ、町ノ國民學校ノ兒童數ノ人口ニ對スル比率ガ、全市町村

平均率ヲ超過スル場合ニ於テ、是ガ問題トナツテ來ルニ應ジテアリマスルノデ、ソレニ該當スレバ影響シテ來ルト云フコトニ相成ルト思ヒマス、但シ左様ナコトニ依リマシテ、其ノ町村ノ財政上特別ナ事由ガ考ヘラレマスル場合ニ於キマシテハ、第三種配付額等ノ分與ニ當リマシテ對酌スル餘地ハアルモノト考ヘラレマス、ソレカラ溫泉地等ニ學童ガ疎開致シマシタ場合ニ、入湯稅等ニ影響ヲ生ズルト云フコトモ御指摘ノ通りデアリマス、其ノ狀況ニ付キマシテハ、實ハ私共ノ方ニ於キマシテモ、各現地ニ付キマシテ段々ト實情ヲ取調ベサシテ居ル次第デゴザイマス、現在當該ノ地方團體ノ財政ニ及ス影響ニ付キマシテハ、色々アルト思フノデアリマスルガ、押シ並ベテ申上ゲマスレバ、當分ノ間ハ徵稅未済ノ過年度分ノ稅收入ガアリマスルトカ、或ハコ、數年間ノ自然増收ニ依リ繰越金ガアリマストカ、或ハ三收益稅ノ増徴ガアリマストカ、色々ノ關係ガアリマシテ、

之ニ依ツテ差向キ財政ノ經理ニ非常ニ困ツテ居ルト云フヤウナ風ナ町村ハ餘リナイヤウデアリマスルケレドモ、併シ矢張り國ノ施策ニ伴ヒマシテ、左様ナ結果ニナツテ參リ、又其ノ影響モ今後、漸次現レテ來ルコトト考ヘマスルノデ、之ガ實情ノ推移ニ付キマシテハ、常ニ留意ヲ怠ラズ、又其ノ實情如何ニ依リマシテ、第三種配付額ノ分與ニ當リマシテ、十分ニ對酌シテ參リタイト考ヘテ居リマス

○子爵本多忠晃君 例へバ例ヲ擧ゲレバ、鳴子町ノヤウニ人口ト同ジ、或ハヨリ以上ノ集團疎開ノ學童ガ來テ居ル、サウ云フ所モ多クゴザイマスヤウニ思ヒマスカラ、其ノ又學童疎開モ、

單ニ短期間ノ問題デナク、長年ニ互ルコトト思ヒマスカラ、是等ニ對スル御方針ヲ今ノ中ニ御決メニナルコトガ必要ダト思ヒマスガ、如何デゴザイマセウカ

○政府委員(澤尾弘吉君) 先程御答ヲ申上ゲマシタ通りデゴザイマスルガ、勿論明年度ノ配付額ノ分與ニ當リマシテハ、實情ヲ調査致シマシテ、此ノ規定ニ該當スルモノガアリマスレバ、之ニ依ツテ對酌セラレルト云フコトニ相成リマスルノデ、左様御承知ヲ願ヒマス

○子爵本多忠晃君 明年度デナク、本年度ノ臨時措置トシテ、非常ニ財政ニ困ツテ居ル市町村ニ對シテハ、何カ臨時ノ措置トシテ増額ト云フヤウナコトハ出來ナイモノデゴザイマセウカ

○政府委員(澤尾弘吉君) 御尤モナ點デゴザイマスガ、實ハ配付額ノ分與ハ年度當初ニ決定致シマシテ分ケテ居リマスルノデ、途中ニ於テ之ヲドウスルト云フ譯ニモ參リ兼ネマスノデ、本年度ノ所ハ如何トモシ難イト云フヤウナ狀況ニゴザイマス、明年度以降ノ問題ト致シマシテ考ヘテ居リマス

○委員長(伯耆林博太郎君) 之ニ關聯シテ長君カラ

○長世吉君 只今學童疎開、集團疎開ノ場合、學童ガ非常ニ殖エテ人口ガ增加シタト云フ場合デモ、明年度デナケレバ救済ノ方法ガナイト云フ風ニ伺ツタノデアリマスガ、ソレニ付テチヨツト分ラナイ點ガアリマスノデ何フノデアリマスガ、其ノ點バカリデナク、全體ニ見テ地方財政ガ此ノ時局ニ依ツテテ行ク必要ガアル、是ガ改正ノ一部デアルト思フノデアリマスガ、此ノ改正ニ依ツテ相當ノ増額ヲ得レルコトト

思フノデアリマスガ、分與稅ノ基本ニナツテ居ルモノヲ考ヘテ見マス、先程ノ御説明デ伺ヒマシタヤウニ、其ノ區域内デ徵收スベキ家屋稅トカ或ハ營業稅トカ云フモノガ基本ニナツテ居リマスシ、或ハ又、配付稅トハ前々年度ニ徵收スル所得稅トカ遊興飲食稅ト云フヤウナモノガ基本ニナツテ居ツテ、而モ其ノ分與稅ノ分與方法ハ、第一種ノ場合デハ人口ガ基準ニナツテ居ル、第二種ノ場合ニハ先程御説明ノ割増人口ト云フモノガ基準ニナツテ居ツテ、サウシテ其ノ割増人口算出ノ基礎ハ、是亦國民學校兒童數ガ基準ニナツテ居ツテ、而モ其ノ人口トカ、國民學校ノ兒童數ト云フモノハ、最近ノ國勢調査ヲ基準ニシテ居ルト云フ關係モアルノデアリマスガ、今日ノ時局デ、或ハ空爆ガアル、或ハ集團疎開ガアル、或ハ學童ノ疎開ガアルト云ツタヤウナコトデ、或ハ營業狀態ナンカモ非常ニ變更ガアルト云フ譯ニモ參リ兼ネマスノデ、全然今迄ノ規定ダケデ以テ、果シテ地方財政ヲ、實際ニ適應シタヤウナ財源ヲ得ラレルモノデアリマセウカドウカ、其ノ點ガ非常ニ懸念サレルノデアリマス、

例へバ將來ノ問題トシテ、其ノ變更シタモノヲ基準ニシテ行クト云フ場合ハ、一ツノ考ヘ方デアリマスガ、現實ニ踏襲シタ、來年度ナラバ來年度ハ、實際ニ分與スル稅ト地方團體ト比較スルト、現狀ト合ハナイ場合ガ幾ラモ起ツテ來ルノデアアル、先程御話ガアリマシタヤウニ、人口ガ少イ團體ホド割高ニナルト云フコトハ事實デアリマスガ、割合カラ言ヘバ割高ニナリマス、場合ニ依ルト、逆ニ非常ニ其ノ變更ガ多クツタ爲ニ、詰リ世ノ中ノ變遷ノ爲ニ、人口ノ少クナツタ團體ハ、實

際利益ヲ得ルト云ツタヤウナ均衡ガ起リハシナイカ、ソレヲ前ノ國勢調査トカ前々年度ノ徵收ト云フヤウナコトダケニ依ラナイデ、幾ラカ財政上ノ救済方法ガアルヤウデアリマスガ、是ダケデハ到底ウマク行カナイデヤナイカ、モット特殊ナ方法ヲ以テ、地均シヲシテ行ク必要ガアルト云フ感ジガアルノデアリマス、如何ナモノデゴザイマセウカ

○政府委員(澤尾弘吉君) 誠ニ御尤モナ御尋デゴザイマスガ、今日人口ノ移動ガ相當頻繁ニ行ハレテ居リマスル關係上、人口ニ基礎ヲ置キマシテ、色々算出致シマシタモノガ、其ノ結果ト致シマシテ、必ズシモビツタリト合ツテ來ナイト云フ風ナ結果ニナリ得ルノデアリマス、是デ私共實ハ非常ニ苦慮致シテ居リマスル次第デゴザイマス、併シナガラ又一面ニ於キマシテ、此ノ配付額ノ分與等ノ問題ニ付キマシテハ、一定ノ方針ヲ以チマシテ、一定ノ計畫ニ從ツテ、正確ニ調査致シマシタモノヲ基礎ニ致シマセスト、間違ヒラ生ズルト云フコトモゴザイマスルノデ、今日ノ所ハ、國勢調査ト云フモノヲ何ト申シマシテモ大本ト致シマシテ、決定ヲ致シテ居リマスル次第デアリマス、御指摘ノ如ク可ナリ人口ノ移動ガ激シイ場合ニ於キマシテハ、之ト調和ノ取レナイ結果ヲ生ズル虞ガアルノデアリマス、併シナガラ一面ニ於キマシテ、割増人口ト云フ風ナコトヲ用ヒテ居リマスル關係上、多少ノ移動ガゴザイマシテモ、ソレ程大キナ影響ヲ直チニ及スト云フコトニモナルマイカト考ヘルノガ一ツノ點デアリマス、同時ニ又都市ノ配付稅或ハ町村ノ配付稅等ニ付キマシテハ、御承知ノヤウニ其ノ地方

第四部第八類 所得稅法外十六法律中改正法律案特別委員會議事速記第四號

ノ事情ヲ斟酌シテ、配付スルト云フ、所謂第三種配付ト云フノガゴザイマス、其ノ第三種配付ト致シマシテ酌酌スル事由ノ中ニ、是ハ施行規則ニ規定致シテ居ルノデゴザイマスガ、人口ノ増加ガ頗ル著シト云フコトモ、第三種配付ノ酌酌事由ノ一ツニナツテ居リマス、ソレカラ又國民學校ノ兒童數ノ増加ガ極メテ著シイ、先程御話ニナリマシタヤウニ、是等モ第三種配付ノ事由ノ一ツトナツテ居リマスノデ、此ノ稅法ノ下ニ於キマシテハ、第三種配付額ノ活用ト云フコトガ、一ツノ途トシテ與ヘラレテ居ルト云フ風ニ、御了承ヲ願ヒタイノデアリマス

○下條康壽君 地方分與稅ト云フノ

ハ、大變ムツカシイ稅デアリマスルガ、例ヘバ此ノ還付稅ハ、地租、家屋稅、營業稅ニナツテ居リマスルガ、斯ウ云フモノハ寧ろ地方稅ニ全部移讓シテシマツテ、其ノ態度ヲ明カニシタガ宜イデヤナイカト云フ風ニモ思フデアリマス、又配付稅ノ如キモノモ、或ハ附加稅ノ方法ニ依ツテモ出來ルノデハナイカト云フ風ニモ思フデアリマス、色々斯ウ云フ一遍國デ徵收シタモノヲ、更ニ地方ヘ還付スルトカ配付スルトカ云フコトハ、誠ニ手續ガ面倒ノヤウニ思フデアリマスガ、地方ニ於テ徵收スルヤウナ方法ニハ出來ナイモノデセウカ

○政府委員(瀧尾弘吉君) 御尋ノ問題

ハ、地方稅制ノ根本ニ關スル大キナ問題デアルト存スルノデアリマス、今日ノ稅制ハ御承知ノヤウニ、昭和十五年ニ國稅ト地方稅トノ兩方ニ互リマシテ、根本的ナ稅制改革ガ實施セラレマシタ、其ノ際ニ地租、家屋稅、營業稅等、是ハ實質的ニハ地方稅デゴザイマ

スケレドモ、色々ナ沿革ナリ、ソレカラ又經緯ナリ等デ、所謂地租委讓ト云フ問題ガアツタ問題デゴザイマシテ、ソレ等ノ關係ガ全部織リ込マレマシテ、一應國稅トシテ全部取入レテ府縣ニ戻スト云フ建前デアリマス、ソレカラ所得稅、法人稅等ハ、是ハ地方稅ト致シマシテモ相當有力ナ稅デアツタ譯デゴザイマス、是等ハ地域的ナ偏在ヲ調整シテ、合理的ニ各地方ニ對シマシテ財源ヲ與ヘルト云フ意味合ニ於キマシテ、全部一應國稅トシテ取上ゲテ、サウシテ配分ノ適正ヲ期シテ行クト云フ趣旨ノ下ニ、今日ノ稅制ガ出來上ツタ譯デゴザイマスノデ、今日ノ場合ト致シマシテハ、此ノ根本ヲモウ一度改メルト云フコトハ、餘程大キナ問題デゴザイマシテ、私共デ御答ヘ申上ゲルコトモ出來ナイヤウナコトデゴザイマスルガ、何ニ致シマシテモ、今ノ如キ時局ノ下デアリマスルノデ、稅制ノ根本ニ關スル改革ヲ行フコトニ付キマシテハ、只今ノ處、政府トシテハ別ニ考ヘテ居ラナイ狀況デゴザイマス

○下條康壽君 御趣旨ハ能ク分リマシ

タガ、現在ノ狀況ハ恐ラク經過的ノ狀況デアラウト考ヘテ居リマス、將來是ハ完全ニ地方ニ委讓セラルベキ方面ニ向ツテ居ルモノデアルト思ヒマス、カニ、尙此ノ點ニ付テハ時局ノ關係モアリマセウガ、御研究ヲ願ヒタイと思ツテ居リマス、ソレカラ次ニ今同ノ第六十六條第二項ノ改正ニ依リマシテ、市町村民稅ノ賦課總額ノ中、限度ガ上ツタ譯デアリマス、先程ノ御説明ニ依リマスト、約四千萬圓位増額ニナルト云フ御説明デスガ、其ノ増額ハ此ノ際限度迄オヤリニナル積リデセウカ、或ハ斯ウ云フ限度ガ新シク決マルト云フダケ

○政府委員(瀧尾弘吉君) 現在ノ狀況

ヲ先ツ御説明申上ゲタイと思ヒマス、現在ノ狀況ヲ見テ居リマス、市町村民稅ニハ、御承知ノヤウニ非常ニ安イノモアリマス、非常ニ高イノモアリマス、大體平均ト云フ點カラ申シマス、略、此ノ限度ニ近イ所迄、現行法ノ限度ニ近イ所迄ニ至ツテ居ルヤウデアリマス、併シ嚴格ニ限度迄キツチリ至ツテ居ルト云フ所迄ハ至ツテ居リマセヌ、今回限度ヲ上ゲルト致シマシテモ、勿論正確ニ其ノ通りビツト行クト云フコトニハ、必ズシモナルマイカト思ヒマスガ、我々ノ氣持ト致シマシテハ、此ノ限度迄ハ引上ゲテ宜シイト考ヘテ居ル次第デアリマス

デ、實際ハ其處迄ヤラナイノカ、其ノ點ヲ伺ヒタイノデス

○下條康壽君 サウシマスト、其ノ市

町村ノ支出ノ方ノ側ニ於テ、斯ウ云フ費目ニ是ダケ要ルト云フ關係カラ計算シタモノデアリマセウカ、唯漠然ト五割計算シタモノデアリマセウカ、五割増額ノ計算ノ基礎ヲ伺ヒタイ

○政府委員(瀧尾弘吉君) 此ノ五割増

額ニ付キマシテハ、是々ノ經費ガ是ダケ要ルカラ、其ノ爲ニ増徴スルト云フ風ナ基礎ハ別ニゴザイマセヌ、唯現在ノ市町村ガ、何ト申シマシテモ色々ヤリ繰リニ困ツテ居ル實情モゴザイマシ、一面ニ於テ國民ノ所得狀況カラ申シマスルト云フト、相當口工合モ宜シイ人達モ可ナリ殖エテ參ツテ居リマス、ソコデ市町村民稅ト云フモノハ今更申上ゲル迄モナク、格別稅ヲ澤山取ルト云フコトガ目的ノ稅デハゴザイマセヌケレドモ、先ツ其ノ根本ノ性格ヲ變ヘナイ程度デ、此ノ程度迄上ゲルト云フコトハ、必ズシモ此ノ市町村

民稅ノ本旨ニ反スル所ハナカラウト云フ風ナ點ト睨ミ合セマシテ、同時ニ又三收益稅ノ増稅ノ工合トモ睨ミ合セマシテ、五割ト云フ所ニ決メタヤウナ次第デゴザイマス、確タル數字ノ根據ヲ以テ決メテ居ル譯デハゴザイマセヌ

○下條康壽君 サウシマスト云フト、

各市町村ニ付テハ、此ノ市町村民稅ノ増額ト云フノハ、其ノ市町村ノ實際支出ノ狀況ニ依ツテ決スルノデアツテ、今幾ラト決マツテ居ル譯デハナイノデスカ

○政府委員(瀧尾弘吉君) 御指摘ノ通

リデゴザイマシテ、市町村ト致シマシテハ、今後ハ、此ノ程度迄引上ゲテ取レルト云フ譯ニ相成ル譯デゴザイマシタガ、市町村民稅ト云フノハ、成ルベク市町村全部ノ人ニ負擔サセテ、比較的輕イ課稅ヲスルノガ本旨ノヤウニ私ハ思ヒマスガ、先程御説明ノ中ニアツタ一人當リノ限度ガ、實ハ今迄多少問題ニナツテ居ツタカト思フノデアリマス、ト云フノハ、御承知ノヤウニ割當貯蓄等ノ場合ニ於ケル市町村民稅ト云フモノガ、基準ノ一ツニナルノデアリマス、ソレデ限度デ押ヘラレテ居ル關係上、割合高額ノ人ガ其ノ割當貯蓄ノ關係カラ見ルト、課稅ガ十分掛ツテ居ラヌト云フコトガ言ハレテ居ルノデアリマスガ、必ズシモ五割増額ノ必要ハナイカモ知レマセヌガ、或程度一人當リノ限度モ引上ノ必要ガアルノデヤナイカト云フ風ニモ感ゼラレルノデスガ、其ノ點ハ先程一應御説明ガアツタ譯デスガ、更ニ御伺ヒタイと思ヒマス

○政府委員(瀧尾弘吉君) 市町村民稅

ノ一人當リノ最高限度ヲ引上ゲマスルト云フ事柄ハ、擔稅力ノ上カラ申シマ

スレバ、尙引上ゲル餘地モ或ハアルカト考ヘルトデアリマスルガ、併シナガラ一面ニ於テ左様ナ方違ハ、度々ノ國稅ノ増稅ニ伴ヒマシテ、所得稅其ノ他ニ於テ、相當高額ノ負擔ヲ致シテ居ル關係モゴザイマスルシ、一面ニ於テ、又市町村民稅ノ本質カラ申シマシテモ、正確ニ所得ニ比例致シマシテ徵收スルト云フ、嚴密ニサウ云フ風ナ行キ方デ徵收スルト云フコトモ如何デアラウカト考ヘマシテ、此ノ際ノ處置ト致シマシテハ、一應現行法通りニ据テ置キマシタヤウナ次第デアリマス

○下條康壽君 サウシマスト、大體一

人當リノ關係カラ見マス、下級ノ方ニ重クナルヤウナ風ニナル結果ト思ヒマスガ

○政府委員(瀧尾弘吉君) 現在ノ徵收

ノ狀況カラ見テ居リマス、云フト、平均ノ所ハ大體此ノ限度ニ近イ所迄行ツテ居ルと思ヒマス、高イ方、或ハ低イ方カラ言ヒマスルト云フト、マダ若干餘地モ殘ツテ居ルモノモアラウカト思ヒマス、併シ大體今度ノ此ノ市町村民稅ノ引上ラ行ヒマスル心持ト致シマシテ、ドウモ市町村民稅ノ實施ノ狀況ガ、何ト云ヒマスカ、資産程度ト云ヒマスルカ、サウ云フ風ナモノノ見立ニ依リマシテ、所謂資産家ナリ相當資産ヲ持ツテ居ル人ニ厚ク、或ハ相當ナ所得ガアリナガラ、他所カラ引越シテ來タ勤勞階級ノ諸君ト云フ所ニハ、餘リ掛ツテ居ラナイト云フノガ實情デアルヤウデアリマス、從ツテ今後此ノ運用ト致シマシテ、私共ノ心持ハ新シク入ツテ來タ新興所得階級ト申シマスカ、サウ云フ方面ニ相當ノ負擔力ガアル譯デアリマスノデ、ドテラカト申セバ、斯様ナ方面ニ向ツテ増徴ヲヤツテ行ツタ

ラ宜カラウ、斯ウ云フ風ナ考ヲ以テ指
導シテ参リタイト思ヒマス

○下條康慶君 大體其ノ趣旨ハ分リマ
シタガ、次ニ今回所得稅、法人稅、營

業稅、遊興飲食稅等テ、地方ニ配付ノ
率ヲ増加シテ地方財源ノ潤澤ヲ圖ツテ
居ルノデアリマスガ、一面先程御話ニ
ナツタヤウニ、遊興飲食稅等ノ減收ニ
依ル所得額ノ補填ノ外ニ、下級職員ノ
待遇改善等ガ見込マレテ居ルノデアリ
マスガ、何カ此ノ下級職員ノ待遇改善
以外ニ見込マレテ居ル用途ハナイノデ
アリマスカ

○政府委員(瀧尾弘吉君) 今回率ヲ改
正致シマシタ關係ノ、其ノ用途ヲナス

モノト致シマシテハ只今御指摘ニナリ
マシタ通りデアリマス

○下條康慶君 サウシマス、此ノ職
員待遇改善ノ經費以外ニハ必要ハナイ

譯デアリマスカ、此ノ増率ノ
○政府委員(瀧尾弘吉君) 少シ細カ
話ニナツテ參ルノデアリマスガ、大體

ハ此ノ遊興飲食稅ナリ、サウ云フ風ナ
モノノ減收補填ト云フコトガ一點、ソ
レカラ新タニ財源トシテ確保スベキモ
ノトシテ、下級職員ノ待遇改善ガ主ナ
リモノデアリマス、極ク僅カナ金デア
リマスケレドモ、國稅ノ改正ニ伴ヒマ
シテ、地租家屋稅等ノ課稅ヲセザル範
圍ガ若干廣クナツテ居リマス、其ノ範
圍ノ補填ヲ此ノ方デ行フト云フモノ
ガ、約二百萬バカリノモノガ、之ニ伴
ツテ居リマス、此ノ程度デアリマス
○下條康慶君 例ノ十圓ニ上ツタ點デ
アリマスカ

○政府委員(瀧尾弘吉君) サウデス
○下條康慶君 例(バ市町村ノ防空ニ

關スル經費等ガ相當額エテ居ルノデア
リマスガ、サウ云フノハ、ドウ云フ方

法デ増加ノ支辨ヲ處置サレルノデセウ
カ

○政府委員(瀧尾弘吉君) 御示シノ通
リニ最近特ニ防空對策關係ノ經費ハ急

激ニ増加致シテ居リマスノデ、府縣ニ
致シマシテモ市町村ニ致シマシテモ、
此ノ財源ノ調辨ニ付キマシテハ相當苦
慮致シテ居リマス、之ガ財源ト致シマ
シテハ、勿論事ノ性質上、國家ト致シ
マシテモ相當ナ援助ヲシナケレバナラ
ナイコトハ申ス迄モナイノデアリマ
ス、其ノ補助等ノ豫算ニ付テモ可ナリ
ノ増額ヲ致シテ居リマス、ソレカラ又
一般的中シマスレバ、昨年行ハレマ
シタ三收益稅ノ増稅ト云フ關係上、相
當地方財源ヲ潤澤ナラシメテ居ルコト
ガ大キナ力ニナツテ居ルと思フノデア
リマス、今一ツ分與稅關係申シマス
レバ、今回ノ議會ニ於テ御審議ヲ願フ
コトニナツテ居ルノデアリマスガ、分
與稅法ノ第七條ヲ御覽戴キマス云フ
ト、七條ノ第四號ニ於テ、「當該年度

ニ於ケル配付稅ノ收入見込額ガ前條第
一項ノ額ヲ超過スル場合ニ於テハ其ノ
超過額ノ全部又ハ一部ノ之ヲ増額シテ
分與スルコトガ出來ルト云フ規定ニナ
ツテ居リマス、即チ法律ノ六條ノ規定
ト致シマシテ、毎年法律上當然分與セ
ラレマス額ハ、前前年度ノ決算ニ對シテ
其ノ率ヲ掛ケタモノガ分與サレルノデ
アリマスガ、實際ニ於テ其ノ年ニ於ケ
ル收入見込額ガ可ナリ澤山アルト云フ
ヤウナ場合ニ於キマシテ、其ノ超過額
ノ全部又ハ一部ヲ増額シテ分與スルト
云フ途ガ開カレテ居リマスノデ、來年
度ノ豫算ニ於キマシテモ、左様ナ計數
ガ一億數千萬圓ト云フ數字ガ出テ參リ
マスルノデ、御協賛ヲ得マシテ、之ヲ
一ツ全部増額分與ノ方ニ振リ向ケルト

云フコトニ致シテ居リマスノデ、彼此
急激ニ増加シテ參リマスル財政事情ニ
對シマシテハ、相當ナ援助ガ出來ルノ
デハナイカト考ヘマス

○下條康慶君 私モ左様ニ希望スルノ
デアリマスガ、近來防空對策關係ノ經

費ガ非常ニ増加致シマシテ、勿論國庫
ノ補助モアリマセウシ、其ノ他ノ經費
ノ増額ニ依ル收入ノ増加モアリマスル
ガ、分與稅ノ方面ニ於テモ矢張り考慮
下サイマシテ、サウ云フ風ノ關係ノ經
費ガ遺憾ナク所辨出來ルヤウニ御願ヒ
シタイト思ツテ居リマス、尙同ジ問題デ
アリマスルガ、實ハ地方デハ斯様ナ問
題ガアルノデアリマス、時局ノ要請ニ
應ジマシテ、山林ノ増伐ト云フコトガ
地方デ相當アリマス、其ノ場合ニ地元
ノ町村デ特別稅ヲ作リマシテ、例ヘバ
林產物搬出稅トカ、立木伐採稅ト云フ
ヤウナモノヲ作リマシテ、相當重イ課
稅ヲスル所ガアルヤウニ聞イテ居ルノ
デアリマス、是ハ勿論一面ノ理由ハア
ルト思ヒマスガ、増伐ニ伴ヒマシテ、
道路トカ或ハ其ノ他色々ノ點ニ於テ補
修ヲ要スルト云フヤウナコトモアリマ
シテ、町村トシテモ經費ノ要ル點ハ認
メラレルト思ヒマス、併シナガラソレ
ガ買手ノ支拂フ場合デモ、結局ハ山持
チノ方ノ人ニ響イテ來ル關係ニ事實ト
シテナツテ居ルノデアリマス、御承知
ノヤウニ今回山林所得ニ關スル臨時措
置ニ依リマシテ、從來増伐ノ場合ハ三
割ニ控除ガ、今度五割ニ控除ニナツテ
居リマス、サウ云フヤウナ國家對策カ
ラ鑑ミマシテモ、左様ナ山持ニ不當ナ
課稅ヲスルト云フコトハドウカ、若シ
其ノ必要ガアルナラバ此ノ分與稅ノ
方デヤツタ宜シイ、サウ云フコト
ガ、現實ニ生ズルトスレバ、分與稅ヲ

其ノ町村ニ配付シテ、サウ云フヤウナ
措置ヲシタ方ガ宜イト考ヘテ居ルノデ
スガ、多分其ノ問題ハ御承知デヤナイ
カト思ヒマスガ、當局ノ御意見ヲ伺ヒ
マス

○政府委員(瀧尾弘吉君) 立木伐採稅
ト云フヤウナ所謂林業關係ノ市町村ノ

獨立稅ノ設定ト云フコトハ、多ク木材等
ノ搬出ガ當該團體ノ道路トカ橋梁等ノ
公共施設ヲ利用シ、其ノ受ケル所ノ利
益ガ少クナイト云フ點ニ鑑ミマシテ、
利益ニ應ジテ負擔ヲセシメルト云フヤ
ウナコトヲ建前トシテ、市町村稅制上
カラ見テ、斯様ナ種類ノ課稅ハ地方稅
トシテハ強チ不適當デナイノデハナイ
カト云フ風ニ考ヘラレマスルノミナラ
ズ、又此ノ稅收入ヲ財源ト致シマシ
テ、林道ノ改善補修アルトカ、橋梁
ノ修理等ヲ行ツテ、積極的ニ林產物ノ
搬出ニ努メルト云フヤウナ目的稅的ナ
性質ヲ持ツテ居ルモノモ澤山ゴザイマ
スルシ、且既ニ設定セラレテ居リマス
所ノ此ノ種稅ノ收入ハ、當該團體ノ稅
收入ニ於テモ相當重要ナ地位ヲ占メテ
居ルヤウナモノガ多イ狀況デアリマ
スルノデ、御示シノ點ハ誠ニ御尤モノ
點ガアルト考ヘルノデゴザイマスガ、
但シ全部ノ之ヲ廢止シテシマフト云フヤ
ウナコトハ、實情上必ズシモ適當デナ
イト云フ風ニモ考ヘラレル節ガアルノ
デアリマス、併シナガラ戰局ノ狀況ニ
鑑ミマシテ、軍需上木材ノ増産供出ト
云フヤウナコトハ、極メテ重要ナコト
ニ相成ツテ居リマス點ハ御示シノ通り
デアリマス、今日ノ地方財源ノ擴充強
化ト相俟チマシテ、今後ノ問題ト致シ
マシテハ、此ノ種ノ稅金ノ新設ニ付キ
マシテハ、極力抑制ヲ致シタイト考ヘ
テ居ルノデアリマス、實ハ既ニアルモ

ノニ付キマシテハ、許可年限ノ更新等
ノ機會ニ於キマシテハ、出來ル限り抑
制シテ參リタイト考ヘテ居ルノデアリ
マス、左様ナコトニ依ツテ生ズル其ノ
團體ノ財政上ノ若干窮乏ニナリマス點
ハ、矢張り御話ニモゴザイマシタガ、
分與稅ノ三種配付稅ノ方デ十分斟酌
シテ參リタイト、斯様ニ考ヘテ居ル次
第デアリマス

○下條康慶君 大體結構ナ御話デアリ
マス、唯現在行ハレテ居リマス徵收サ

レテ居リマス場合ニ於キマシテモ、出
來ルナラバ或ハ廢止ト迄行カヌ迄モ、
相當程度此ノ分與稅ノ方デ御考慮ヲ願
フヤウニシテ戴クナラバ、誠ニ結構ダ
ト思ヒマス、非常ニ木材ノ問題ハ重大
問題デアリマシテ、其ノ爲ニ若シサウ
云フコトノ關係カラシテ、搬出ノ方ニ
支障ガアツテハ相成ラヌト思ヒマスカ
ラ、ドウゾ其ノ點、十分御考慮ヲ願ヒ
タイト思ヒマス

○男爵松平外與堂君 只今ノ下條委員
ニ關聯シタ事項デアリマスガ、今度一

人當リノ單價ヲ御上ゲニナツタ御事情
ヲ承ツタノデスガ、十分注意ヲスルト
云フ御話デアリマシタ、恐ラク之ヲ八
圓ガ十二圓ニナツタト云フコトニナリ
マス、地方廳ニ於ケル租租ト云フ
モノハ何處ヲ租フカ、非常ニ疑問ニナ
リハシナイカ、最高限度ヲ二千圓ト押
ヘテ居リマスカラ、ソレ以上ニナルコ
トハゴザイマセヌガ、結局新興階級ト
申シマスガ、新シイ階級而モ相當ノ收
入源ガアル、之ヲ十分租フト云フコ
トデアレババカシイコトデアリマセ
ヌカ、一般的ニ市町村民稅ノ額ヲ御上
ゲニナルナラ宜イガ、恐ラク是ダケデ
ハナスツタ效果ガ薄イノデハナイカ、
黙ツテ居リマシタラ、又財產家ガ大體

五割増テ取ラレル、結局少イ者ハ少クテ濟ム、是ハ餘程御注意ヲ願ヒマセヌト、今御話ニ依リマスト、是ダケノ與ヘラレタ市町村民稅ガアル、全部ハ實際ニ於テハ使ヘナイ、幾ラカノ保留モアルト仰シヤルノデスガ、保留ノアルノハ結構デアリマスコ、其ノ狙ヒ所ト云フモノヲ餘程嚴格ナ意味ニ於テ各地方廳ニ御達シ下サイマシテ、又地方廳ガ各郡役所、市町村ニ能ク御話ニナリマセヌト、政府ノ御期待ニ背ク結果ガ出ヤシナイカト思ヒマス、是ハ或意味ニ於テ斯ウ思ツテ居リマシタ、國稅ニ於テモ新興階級ト云フモノヲ餘程狙フノダト考ヘテ居リマスコ、今度ノ狙ヒ所モ其處ガ矢張り好イ狙ヒ所ノ一ツデハナイカ、此ノ點ニ付テハ諄イヤウデスガ、一ツ十分ニ御觀察ヲ願ヒマシテ過チノナイヤウニ行ハレムコトヲ特大臣ニ御伺ヒシテ、大臣ノ御所見モ併セテ伺ヒタイト思ヒマス、其次ニ三種配付ノ問題ガ先程出タノデアリマスコ、第三種配付ト云フモノハ分與稅ノ第二種配付、第三種配付ト思ヒマスコ、第三種配付ト云フノハ總額カラ見テドノ位ノ割合ニナツテ居リマスコ、簡單ノモノデアリマスコ、一ツ、更ニ從來此ノ稅法ノ行ハレマシタ結果、第三種配付ト云フモノノ現實ニ行ハレタ場合ガ相當アルノデアリマセウカ、其ノコトヲ伺ヒタイト思ヒマス、ソレカラ其ノ次ハ配付稅ガ今御話ニ依リマスト、法律ガ施行サレテカラ今日マデ三回ニ變ツテ居リマスコ、道府縣ノ配付稅ガ六十二、六十、六十三、市町村ノ配付稅ガ三十八、四十、三十四トナツテ居リマスコ、御話ニ依リマスト、初年度ヤツタコトガ、進行ノ途中市町村ノ方ノ負擔ガ非常ニ重クナツ

タ、處ガ今度ニナルト、又道府縣ノ方ノ負擔ガ多クナツテ、又直シタ方ガ宜クハナイカト云フ、是デアリマスコ、市町村ヤ道府縣ノ財政ノ膨脹ノ主タル原因ヲ伺フノデス、道府縣デハ今ノ御話ニ依リマスト、例ノ義務教育費問題ガ全額ニナツタカラ殖エタノダト云フ簡單ナ御話デスガ、一體ソレ以外ニ道府縣ノ財政ノ狀況、又市町村ノ財政ノ狀況ノ膨脹ノ工合ト云フモノハ、ドウ云フ方ニ膨脹率ガ進ンデ參ルモノデアリマスコ、若シ御分リデアリマスコバ、參考トシテ承リタイト思ヒマス

○國務大臣(大達茂雄君) 松平男爵ノ初メニ御述ベニナリマシタ點ニ付テ御答ヘ申上ゲマス、市町村民稅ノ實際ノ價格ヲ決定致シマスコ場合ニ付テ御話デアリマスコ、先程地方局長カラモ御話申上ゲマシタヤウニ、全然政府ニ於テモ同様ニ考ヘテ居リマスコ、實際調査ニ當リマシテ、其ノ點目ノ徹底致シマスコヤウニ、十分地方廳ニ示達ヲシテ間違ヒノナイヤウニ致シタイト思ヒマス

○政府委員(瀧尾弘吉君) 第三種配付額ノ分與ノ狀況ニ付キマシテハ、他ノ政府委員カラ御答ヘ致シマス、道府縣ト市町村ノ狀況ト、道府縣ノ財政ノ膨脹ノ狀況ニ付テ御尋デゴザイマスコ、大體ニ於キマシテ何ト申シマシテモ、戰爭關係經費ガ急激ニ膨脹シテ參ツテ居リマスコトガ、今更申上ゲル迄モナイコトデゴザイマスコ、今日ノ一番大キナ特徴ヲナシテ居ルト思フノデアリマスコ、此ノ點ハ道府縣ニ付キマシテ市町村ニ付キマシテモ、同様ニ殖エテ居ル、一般ノ經費ニ付キマシテハ、財政監督ノ上カラ申シマシテモ、極力不用不急ノ事業ノ抑制モ致シテ居リマス

シ、又經費ノ節約等ニ付キマシテモ、屢次指導モ致シテ居ルヤウナ次第デアリマスコ、最近ノ戰局ノ推移ニ伴ヒマシテ、戰爭關係經費、特ニ防空對策經費ト云フヤウナモノガ、急激ニ膨脹致シテ居ルノガ共通ノ現象デアラウカト考ヘテ居リマス、其ノ間ニ於キマシテ、府縣ガ近時市町村ニ比較致シマシテ、特ニ窮屈化ヲ感ジテ來ルヤウニナツタト云フ點ヲ申上ゲマスコ、何ト申シマシテモ學校ノ職員ノ給與ニ關スル諸經費、所謂人件費ノ増加ト云フモノガ非常ニ大キクナツテ參ツタノデアリマスコ、先程モチヨソト御說明申上ゲマシタ次第デゴザイマスコ、昭和十八年度以降ニ於キマシテ、負擔區分ノ改正ガ行ハレマシタ結果、府縣ト致シマシテハ一億數千萬圓ノ新ナル負擔ヲシナケレバナラス、市町村ト致シマシテハ之ニ匹敵スル程度ノ餘裕ヲ得ルニ至ツタト云フヤウナ關係ニ至ツテ居リマスコ、特ニ取立テ、申上ゲレバ、教育關係ノ人件費ガ非常ニ府縣ノ財政ヲシテ窮屈ニナラシメタ、同時ニ、單ニソレダケデナク、下級職員ノ給與ノ狀況等モ可ナリ氣ノ毒ノ狀況ニアリマスコ、色々ト給與改善ノコトガ考ヘラレテ居リマスコ、段々トマダ、此ノ方ノ負擔ガ大キクナツテ行ク、何シロ小學校教員ト一口ニ言ヘバソレ迄デアリマスコ、非常ニ多數ノ人ヲ擁シテ居リマスコ、チヨソト給與ノ改善ヲ致シマシテモ、莫大ナ經費ヲ支出スルト云フコトニナツテ參リマスコ、特徴ト致シマシテハ、其ノ邊デアツテ行ツテ宜イノヂヤナイカト考ヘテ居リマス

○政府委員(大野運治君) 第三種配付額ノ割合ノ點ニ付キマシテ御答ヘ致シマス、所謂酌分與ノ意味シテ居リマスコ、第三種配付額ハ都市及町村ニ付テデアリマスコ、ソレハ都市配付額及町村配付額ノ百分ノ五ト云フコトニナツテ居リマスコ、明年度計算致シテ見マスコ、都市分ニ於テ二百七十五萬圓、町村分ニ於テ二百四十萬圓ノモノヲ見テ居リマスコ、此ノ三種配付額ガ都市及町村分ノ配付總額ノ各、百分ノ五ト云フ割合ハ變ツテ居リマセヌガ、昭和十五年度カラ十九年度迄ノ經過年度中ハ、本來ノ第三種以外ノ經過規定ヲ以テ加ヘテ居ル分ガアルノデアリマス、ソレヲ合算致シマスコ、此ノ經過期間中ハ金額カラ計算致シマスコ、百分ノ五ヨリハ相當殖エテ居リマス、三倍乃至四倍割合ガ殖エテ居ルヤウデアリマスコ

○男爵松平外郎君 大體御話ヲ承リマスコ、斯ウ云フコトモ想像出來ルノデアリマスコ、此ノ分與稅ガ戰局ノ動向其ノ他、都道府縣市町村共増シテ居ル、ドウシテモ自然分與稅モ増シテ來ル趨勢ニナルト云フコトヲ考ヘマスコ、恐ラク本二十年年度ノ分與稅ノ地方ニ配付サレル所ノ總額ハ、二十一年度示スモノデ、是ハ減少スルコトハゴザイマセヌケレドモ、或程度加速度ノ増加シテ行クヤウニモ想像サレルノデアリマスコ、現在ノ額デ當分抑ヘ得ルモノデアリマスコ、抑ヘルコトガ出來ナイモノデアリマスコ、自分ノ考トシテハ、二十年年度ハ是ダケ二十一年度ハ更ニ増スト云フ趨勢ニ行クモノデハナイカト思ヒマスガ、御見込ハ如何デセウカ、モウ一ツハ分與稅ノ關係ノ繰入レノ特別會計デアリマスコ、是ハ内務省ト大藏省ノ共管事項ニナツテ居ルト承知シテ居リマスコ、實際如何ナモノ

デアリマセウカ、其ノ單獨主管ト云フコトニ出來ナイモノデハナイカト考ヘマス、ト云フノハ稅ヲ取立テルトカ何スルトカ云フコトハ全然關係ハアリマセヌデ、結局特別會計ニ入ツテ來タ所ノ、或一定ノ財源ヲ特別會計ニ入レテ、ソレヲ適當ニ處置スルノデアリマスコ、事務的二見テモサウムツカシイ事項デナイ、寧ロ内務省ノ直轄ノ特別會計ニシテモ宜イノヂヤナイカ、又寧ロソレヲシタ方ガ實際上便宜デ、又迅速ニ出來ルノデハナイカト云フコトモ考ヘラレルノデアリマスコ、此ノ事ニ付テ、ドウ云フ御考ヲ持ツテ居ラレマスコ

○政府委員(瀧尾弘吉君) 地方財政需要ガ、段々ト増高シテ參ツテ居リマスノハ御指摘ノ通りデアリマス、十九年度ニ比較致シマスコ、二十年年度ハ相當増額スルモノト云フ豫測ノ下ニ、色々具體案ヲ考ヘテ居ル次第デアリマス、更ニ是ガ二十一年度ニナリマスコ、ドウ云フコトニ相成リマセウカ、恐ラクハ御指摘ノ通りニ、更ニ殖エテ行クノデハナイカト云フヤウニ想像致シテ居ル次第デアリマス、何様今日ノ如キ時局ノ下デアリマスコ、前途ノコトヲ見透スト云フコトハナカ、困難ナコトデゴザイマス、兎モ角昭和二十年年度ノ財政需要ニ對シテハ、今回他ノ方面ニ於キマシテ或ハ特別補給金ヲ考ヘルトカ、分與稅ノ増額分與ヲ行フトカ、色々ノ措置ニ依リマシテ、兎モ角一應ヤリ繰リハ著クノデハナイカト云フ豫定ヲ持ツテ居リマス、之モ併シ急激ニ變化スル事態ノ下ニアリマスコ、年度半ニ於テ如何ナル事態ガ生ジテ來ルカ分ラナイヤウナ狀況デゴザイマシテ、的確ナコトハ申上ゲラレマ

セヌガ、只今ノ下ニ於キマシテハ概ネ二十年度ニ付テハ充足シ得ルト考ヘテ居リマス、二十一年度以降ノ問題ニナツテ來ルト、矢張り相當嵩スルモノトハ考ヘルノデアリマスガ、今の確ニ現在ノ措置ヲ以テ止メテ置イテ宜イカドウカト云フコトニナリマス、可ナリ疑問ハアルト思ヒマス、現在、唯將來ニ期待シ得ル所ハ所得稅其ノ他ノ稅收入ガ伸ビル關係上、配付稅モ自然ニ伸ビテ行クト云フコトヲ期待シテ居ルノデ、其ノ外ノ問題ニ付テハ、矢張り其ノ際ニ於ケル相當ノ措置ヲ取ツテ行カナケレバナラヌト思ツテ居リマス、ソレカラ特別會計ノ所管ニ付テノ御尋デアリマス、現在御指摘ノヤウニ、内務省ト大藏省ト共管ニ相成ツテ居ルノデアリマスガ、共管ト申シマシテモ、ソレノ分擔ヲシテ仕事シテ居ルト云フ風ニ申上ゲテ宜イト思フノデアリマス、唯國稅ヲ分割シテ、特別會計ノ中ニ繰リ入レテ參リマス關係上、國稅ノ主管當局ト大藏省ト、ドウシテモ一致シテ物ゴトヲ相談シテ行カナケレバナラヌ、其ノ關係ニ於テ主トシテ特別會計ニ於ケル收入ノ關係ニ於テ、大藏省ト一緒ノコトヲスルト云フ關係ニ立ツテ居ルト思フノデアリマス、之ヲ地方ニ分與スル際ニ於キマシテ、内務省ダケノ仕事トシテ現實ニモ行ツテ居ルヤウナ狀況デアリマシテ、共管ニハナツテ居リマスガ、其ノ間手續其ノ他ノ點ニ付キマシテ、特ニ面倒トカ、複雜ト云フヤウナコトモナイヤウニ考ヘテ居リマスノデ、先ヅ現在ノ處、共管デアツテ差支ナイノデアリカト云フ風ニ考ヘテ居リマス

自ノ地方稅ト云フモノヲ現在認メラレテ居リマスガ、是ハ如何ナモノト思ヒマスガ、稅額カラ見マシテモ、恐ラク國庫カラ來マス金額ノ方が大デ、或意味ニ於テ、地方稅ハ補充ノ意味デ、財源トシテ認メラレテ居ルト思ヒマスガ、是ハ私ダケノ想像デアリマス、地方稅ノ收入ノ歩合ト云フモノハ、減少シツ、アル狀況デハナイカト想像スルノデアリマス、ト云フノハ、色々ナ對象物件、例ヘバ物的ノ目標、人的ノ目標ト云フヤウナモノハ、非常ニ今ノヤウニ移動率ガ多ク、又物が段々減少シ、無クナツテ來ルト云フ點カラ考ヘマシテ、自然減少スルト思ツテ居ルノデアリマスガ、若シ減リマセヌデ、増加スレバ結構デアリマスガ、サウ云フ點カラ考ヘテ地方稅ト云フモノニ付テ、先程ノ御話デアリマス、是ハ相當御考ニナツテ宜イト思フノデアリマス、又手ヲ加ヘナイニシテモ只今カラデモ、之ニ對シテ相當ニ研究シ調査シ、又ソレニ對スル相當自信ノアル所ノ決定ヲ御定メニナツテモ構ハナイデヤナイカト思ヒマスガ、今尙、現在ノ狀況カラサウ云フモノニハ手ヲ觸レナイト云フノハ、御尤モト思ヒマスガ、調ベテ置ク必要ガアルト思ヒマス、是ニハ全然觸レナイ、問題ニシテ置カナカツタ、何モ考ヘテナイト云フ、ハツキリシタ御答辯ト承知シテ宜シウゴザイマスカ、念ヲ推シテ置ク次第デアリマス

○政府委員(澤尾弘吉君) 地方ノ狀況ニ即應致シマシテ立派な稅制ヲ打立テルコトガ必要デアルト云フコトハ申ス迄モナイコトカト思ヒマス、現ニ内務省ト致シマシテモ、地方ノ稅制等ニ關スル若干ノ調査費ヲ調達致シテ居リマスノデ、事務ノ方面ニ於キマシテハ色現實ノ事態ニ付キマシテモ、研究シ調査モ致シテ居ル譯デアリマス、唯其ノ調査ノ結論ト云フモノハ今得ルニ至ツテ居リマセヌ、ノミナラズ左様ナコトデアリマスノデ、今日ノ如キ場合ニ拔本的な稅制ノ改正ト云フヤウナコトハナカク、容易ニ著手シ得ナイ狀況デモゴザイマスノデ、今回ノ改正ニ於キマシテハ、主トシテ地方分與稅等ノ經過年度ガ平年度ニ入ルト云フ關係ニ於キマシテ、手直シヲ致シタト云フ程度ニ止メテ居ル譯デアリマス、御話ノ如キ大切ナ調査ニ付キマシテハ、現ニ行ツテ居リマス、今後モ續ケテ參リタイト考ヘテ居リマス

○子爵梅園篤彦君 本改正案ニ依リマシテ市町村ハ新タニ約四千萬圓ノ財源ヲ得ルト云フコトニナツテ居ルヤウデアリマスガ、然ルニ地方自治團體ニ於キマシテハ、先程カラ御話ノアリマシタ如ク、人件費ノ急激ナル膨脹トカ、或ハ國防費ノ増大トカト云フヤウナコトデ、其ノ經費ハ愈々重ツテ參ツテ居ルノデアリマス、果シテ、此ノ際此ノ四千萬圓ノ新ナル財源ニ依リマシテ地方財政ノ需要ヲ十分ニ充足シ得ルモノト御考ニナツテ居ルモノデアリマセウカ、此ノ點ニ付テ多少不安ヲ持ツテ居リマスノデ、果シテ此ノ點尙尙烈ナル際、斯ウ云ツタ事情ノ下ニ地方自治團體ヲシテ、時局下其ノ活動ノ上ニ遺憾ナカラシメルト云フ御期待ヲバ、果シテ此ノ金額ヲ充足シ得ルモノカドウカト云フコトニ、實ハ不安ヲ持ツテ居ルノデアリマス、全國ノ市町村何萬アルカ存ジマセヌガ、其ノ多數ノ市町村ニ此ノ四千萬圓デハ大シタコト

ニナラナイカノヤウニ思フノデアリマシテ、サウ致シマス、此ノ時局下、其ノ活動ノ上ニ遺憾ナカラシメルト云フ大キナ目的ヲ、果シテ此ノ金額ヲ充足シ得ルカドウカト云フコトニ不安ヲ持ツテ居ルノデアリマス、果シテドウ云フ風ニ御考ヘニナツテ居リマスカ、此ノ點ニ付テノ御所見ヲ伺ヒタイト思ヒマス

○政府委員(澤尾弘吉君) 御尤モナ御質問デアリマス、市町村ノ財政ノ狀況モ、戰時下段々膨脹シテ參ツテ居リマスノデ、之ガ財源ノ調達ニ付キマシテハ、政府ト致シマシテモ、亦當該地方團體ト致シマシテモ、色々心配ヲ致シテ居リマス事柄デアリマス、此ノ財源ノ充足ノ見地カラ申シマシテ、今回ノ市町村民稅ノ増稅、約四千萬圓ト云フモノヲ以テ、十分デアルカドウカト云フコトニナリマス、是ハ相去ルコト極メテ遠イト考ヘナケレバナラヌト思ヒマス、唯市町村ニ對スル財源ノ充足ノ關係ニ付キマシテ、一二例ヲ以テ申上ゲマスレバ、先程モチヨツト申上ゲタコトデゴザイマスガ、最近國策關係或ハ戰爭關係ニ依ツテ、色々ノ仕事ガ市町村ニ課セラレテ居ル譯デアリマス、之ニ付キマシテハ概ネ相當ニ國庫補助ヲ伴ツテ、國庫補助デ以テ可ナリ援助ヲ致シテ居ルノデアリマス、防空關係ノ經費ニ付キマシテモ、段々ト國庫補助モ増額セラレテ居ルヤウナ狀況デアリマス、又明年度豫算カラハ、御承知ノ如ク、最近ハ軍需會社等ガ地方ニ設置セラレマシテ、其ノ爲ニ一面ニ於キマシテ地方稅ノ收入ガ却ツテ出ルト云フヤウナコトモナリ、一面ニ於テハ是等ノ施設ニ協力スル爲ニ、地方ノ行政費ガ殖エテ行クト云フヤウナ狀況ニナリマシテ、地方ト致シマシテハ、可ナリ困ツテ居ルト云フヤウナ事情ガゴザイマス、斯様ナ特殊ノ事情ニ依リ市町村ニ對シテハ特別ノ財政補助金ト云フモノモ出サウト云フコトニ相成ツテ、現ニ御協贊ヲ御願ヒ致シテ居ル次第デアリマス、斯様ナ防空關係都市ニ對シマシテ、約一千萬圓程度ノ補助金ヲ出スト云フヤウナコトモ致シテ居リマス、ソレカラ又、昨年行ハレマシタ實質的ニ地方稅デアリマス所ノ三收益稅ノ増稅ニ伴ヒマシテ、相當ノ稅收入ノ増加ト云フコトガ、地方團體ニハ皆現ハレテ居リマス狀況デモゴザイマス、又分與稅ノ點カラ申シマシテモ、明年度ニ於キマシテハ十九年度ニ比較致シマシテ、分與稅ノ市町村ニ對スル配付總額ガ六千數百萬圓程増加スルヤウナコトニモ相成ツテ居リマス、斯様ナ色々ナ財源ニ關スル措置ト合セマシテ、今回ノ市町村民稅ノ增收ト云フコトヲ考ヘマスレバ、先ヅ先ヅ之デ以テ當面ノ市町村ノ財政需要ハ概ネ充足スルノデアリカト云フ風ニ考ヘテ居ル次第デアリマス

○子爵梅園篤彦君 只今ノ政府委員ノ御說明ニ依リマシテ、大體了承致シマシタ、内務大臣ノ御所見ハ如何デアリマセウカ

○國務大臣(大達茂雄君) 先程政府委員カラ御說明申上ゲマスルヤウニ、市町村財政、地方財政ガ漸次嵩高ノ一途ヲ辿ツテ居リマス、殊ニ防空關係其ノ他戰爭關係ノ經費ガ急激ニ膨脹シテ參ツテ居リマスノデ、之ガ財政需要ヲ完全ニ充足スルト云フコトハ、色々ノ手ヲ盡シテヤツテ居リマス譯デアリマス、先程ノ御說明ニアリマスヤウニ、蓋當リ昭和二十年度ノ財政需要ノ充足ニ付

キマシテ、分與稅法經過年度ノ終了ノ機會ニ於テ、其ノ手直シト併セテ、二十年度ノ財政需要ノ充足ト云フコトヲ目的トシテ、差當リ必要ヲ改正ヲ致シタイト、斯ウ云フノデアリマシテ、

其ノ一端ヲ致シマシテ市町村民稅、大體五割程度ノ平均價格ノ増率ヲ致シマシテ、之ニ依ツテ約四千萬圓ノ財源ヲ生ミ出シタイ、其ノ他ニモ、只今地方局長カラ總、申上ゲマシタヤウニ、配付稅ノ増額分與デアルトカ、各般ノ手段ニ依リマシテ、當面二十年ノ財政需要ノ充足ニ遺憾ナキヲ期シタイ、斯ウ云フ風ニ考ヘテ居リマス

○子爵梅園篤彦君 只今ノ御説明デ大體了承致シマシテ、處デ、此ノ四千萬圓ハ五大都市其ノ他重要都市ニ於テハ、ソレトドシテ金額ニナツテ居リマスカ、若シ御分リニナレバ御示シテ願ヒタイと思ヒマス

○政府委員(大野達治君) 市町村民稅ヲ五割程度上ゲマシタ場合、ドノ位ノ増收額ガアルカト云フ問題デアリマス、大體大都市ニ於キマシテ千七百萬元位デアリマス、此ノ大都市ト云フ中ニハ、東京都ノ從來ノ區ニ關スル經費モ入ツテ居リマス、ソレカラ大都市ハ人口七十萬以上、ソレニ東京都ノ從來ノ區デ千三百萬圓程度、ソレカラ一般ノ都市ニ於キマシテ千七百萬元、ソレカラ一萬有餘ノ町村ニ於キマシテ千七百萬元程度ノ増收可能ノ見込デアリマス

○子爵梅園篤彦君 我々地方都市ニ住ンデ居リマス者トシテ、是ハ相當關心ヲ持ツテ居リマスノデ、五大都市ニ對スル金額ハドノ位ニナツテ居リマスカ御分リニナリマセヌデセウカ

○政府委員(大野達治君) 只今申上ゲマシタノハ、市町村民稅デゴザイマス

○子爵梅園篤彦君 五大都市ニ對スル額ハ、御分リニナツテ居リマセヌカ

○政府委員(大野達治君) 只今計算ガゴザイマセヌデスカラ、一應計算シテ御答ヘ致シマス

○委員長(伯爵林博太郎君) 梅園子爵ハ宜シウゴザイマスカ、外ニ御質問ハゴザイマセヌカ

○橋本辰二郎君 此ノ十九年度ニ於ケル還付稅及ビ二十年度ニ於テノ收入豫算並ニ十九年度ニ於ケル配付稅ノ總額及ビ二十年度ニ於ケル收入ノ豫算ヲ承リタイと思ヒマス

○政府委員(大野達治君) 還付稅ト配付稅ノ繰入レト、ソレカラ實際交付致シマスル額トハ食ヒ違ヒガゴザイマス、配付稅ニ於キマシテハ繰入レタ分ヲ全額分與シ得ルト云フ關係ニナツテ居リマス、本年度ハ、配付稅ニ於キマシテ八億九千六百萬圓繰入レマシテ同額分與スルト云フ建前ニナツテ居リマス、之ヲ前年度ニ比ベマスト云フト、二億二千七百萬圓餘ノ増額ト云フコトニナツテ居リマス、ソレカラ還付稅ノ方デゴザイマスガ、還付稅ハ其ノ年ニ繰入ラレタモノガ、全部其ノ年ニ還元交付セラレルト云フ關係ニハナツテ居リマセヌ、ソレハ法制ノ建前上一月カラ三月迄ノ間ニ繰入ラレタモノハ、五月ニナツテ還元交付セラレルト云フ建前ニナツテ居リマスノデ、一月カラ三月ノ間ニ入ルモノハ、年度ヲ越シテカ地方團體ニ還元交付セラレルト云フ建前ニナツテ居リマス、ソコデ還付稅ノ方ニ於キマシテハ、昭和二十年年度ニ繰入ラレル額ト致シマシテハ、二億六千四百萬圓、之ヲ前年度ニ比ベマスト云フト三千百萬圓ノ増ト云フコトニナツテ居リマス、一方此ノ分與セラレ

ル還付稅トシテ還元交付セラレル額ヲ申上ゲマスト云フト、前年配付稅越シガ相當アリマシタノデ、明年度ニ於キマシテ還付稅トシテ還元交付セラレルノハ二億八千七百萬圓ト云フコトニナツテ居リマシテ、昭和十九年度ニ比較致シマセバ、四千八百萬圓ノ増ト云フコトニ相成ツテ居リマス

○橋本辰二郎君 ソレカラ此ノ國民學校ノ職員ノ諸給與ノ増加額ト、青年學校職員ノ諸給與ノ増加額トノ内譯ハ御分リニナリマスカ

○政府委員(大野達治君) 國民學校職員ノ俸給ト、ソレカラ赴任旅費以外ノ諸給與ハ、昭和十八年度ニ於キマシテ市町村カラ道府縣ニ移管セラレタノデアリマス、其ノ當時府縣ハ五千七百萬元バカリ負擔増ト云フコトニナツテ居リマス、市町村ハ五千四百萬圓バカリ負擔ガ免レルト云フ關係ニナツテ居リマス、是ハ市町村カラ道府縣ニ移管セラレマスト云フト、從來ノデゴボコガ是正セラレマス關係デ、道府縣ニ移管セラレマシタ場合ハ、從來市町村ガ負擔シテ居リマシタモノヨリ、多少負擔ガ多クナルト云フコトノ見込デアリマス、ソレカラ青年學校職員ノ諸給與ハ、昭和十九年度ニ於キマシテ市町村ニ負擔ヨリ道府縣ニ移管ニナリマシタノデアリマス、之ニ依リマシテ、市町村ハ從來四千五百萬圓程度負擔シテ居リマシタモノガ免レルト云フコトニ相成リマシタガ、道府縣ハ同程度新タニ負擔ガ多クナルト云フコトニ相成リマシタ

○橋本辰二郎君 我々總額ヲ聽イタ譯デハナイノデ、十八年度ヨリモ増加シタ額ガ幾許ニナルカト云フコトヲ承ツタノデ、要スルニ此ノ増額シタモノヲ支辨スル爲ニ、四千萬圓ト云フ財源

ヲ求メラレタモノデアラウト思ヒマスルノデ、其ノ點ヲ伺ヒタイ

○政府委員(瀧尾弘吉君) 御質問ノ御趣旨ガ能ク分リ兼ネルノデゴザイマスガ、増加ト申シマスルノハ、總テノ經費ノ増加ノ點ニ付デアリマスカ

○橋本辰二郎君 曩ニ大臣ノ御説明中、諸給與ト云フモノガ移管セラレタ、又青年學校ノ諸給與モ市町村カラ移管セラレタ、彼此シテ市町村ノ負擔ハ輕クナツタガ、道府縣ノ方ニハ重クナツタト云フヤウナ事情ガアル、唯其ノ事情ノミデナクシテ、其ノ移管セラレタル爲ニ相當ノ増額ヲ來シタノデアラウ、其ノ増額ニ對スル所ノ支辨ノ財源ニ充テル爲ニ、四千萬圓ノ財源ヲ求メラレタノデハナイカト云フヤウニ私考ヘマシタノデ、其ノ點ヲ伺ヒタイ

○政府委員(瀧尾弘吉君) 道府縣ニ對シマシテ、市町村カラ分レマシタ職員ノ經費負擔ガ移リマシタ關係上、道府縣ト致シマシテハ約一億圓バカリノ新縣ト負擔ヲスルニ至ツタト云フコトヲ先程申上ゲタノデゴザイマスガ、此ノ關係ニ伴ヒマシテ、今度ノ分與稅法ノ手直シヲ參リマスノデ、配付稅ノ總額ヲ道府縣ト市町村トニ分ケマスル制振リノ率ヲ改正スルコトニ致シタ譯デアリマシテ、ソレガ配付稅總額ノ從來ノ分ケ方ガ百分ノ六十ヲ道府縣ニ、百分ノ四十ヲ市町村ニトアリマシタノデ、百分ノ六十三、詰リ百分ノ三ダケ道府縣ニ増スコトニ依リマシテ、其ノ邊ノ決濟ヲ付ケヨウト云フヤウナ考ヲ以テ致シタノデアリマス、四千萬圓ノ増額ノ方ノ關係ハ、是トハ全然別ノ關係デアリマシテ、市町村ノ財政需要ニ對シマシテ、若干ナリトモ財源ヲ確保シタイト云フ趣意カラ致シマシ

テ、市町村民稅ノ増徴ト云フコトヲ計畫致シタ次第デアリマス、其ノ間ニ直接ノ關係ハゴザイマセヌノデアリマス

○橋本辰二郎君 今回ノ徵收額ノ率ヲ増加セラレタノハ、所得稅其ノ他ノモノト、遊興飲食稅トハ大分其ノ差額ガアルヤウデアリマスルガ、是ハ遊興飲食稅ハ、自然殆ド減收トナツタ結果、此ノ率ヲ殖ヤスコトニ依ツテ豫定ノ收入ヲ得ラレルト云フ御考ノ下ニ御定メニナツタノデアリマスルカ、又遊興飲食稅ヨリ幾許ノ金額ヲ必ズ徵收スルト云フ基準ノ下ニ御定メニナツタモノデアリマセウカ

○政府委員(大野達治君) 今回ノ分與稅法ノ繰入レ及分與率ノ改定デアリマスガ、是ハ先程局長カラ御説明デアリマシタ通り、色々ノ關係ガアリマス、一ツハ待遇改善關係デ一億三千萬圓程度繰入レ増ヲ行フ必要ガアル、ソレカラ遊興飲食稅關係デハ、減收補填三千百萬圓ト云フ關係ガゴザイマス、左様ナ關係カラ率ノ改定ヲ行ツタノデアリマスガ、遊興飲食稅關係ノ三千百萬圓ノ繰入レ不足ノ補填ハ矢張り全部遊興飲食稅カラソレヲ廻シテ貰フト云フ關係デ改定ガ行ハレテ居リマスノデ、其ノ關係デ御話ノ通り遊興飲食稅カラ繰入率ハ殖エテ居ルノデアリマスガ、ソレ以外ニモマダ待遇改善ノ一部ニモ、遊興飲食稅入場稅ノ方カラ繰入ラレルト云フ關係ニナツテ居リマス、之、併セテ率ノ關係ハ計算セラレテ居リマス

○橋本辰二郎君 此ノ割増人口ト云フコトハ、私ハ能ク頭ニ入ラヌヤウデスガ、チヨット斯ウ云フコトデアリマスカ、全國ノ人口ニ比例シテ國民學校ノ

○橋本辰二郎君 此ノ割増人口ト云フコトハ、私ハ能ク頭ニ入ラヌヤウデスガ、チヨット斯ウ云フコトデアリマスカ、全國ノ人口ニ比例シテ國民學校ノ

兒童ノ數ガ百分ノ五アル、是ガ平均
ダ、處ガ或都市ニ依ツテハ百分ノ六若
シクハ七モアル、此ノ場合ニ於テ、例
ヘバ一及二ト云フ、詰リ超過シタモ
ニ、其ノ都市ニ於ケル十萬ナラ十萬
ノ人口ヲ掛ケタモノヲ加ヘルト云フ意
味デアリマセウカ、此ノ算定ノ方法ニ
付キマシテ、御示シテ願ヒタイ

○政府委員(大野連治君) 地方分與稅
法ノ施行規則ノ第十四條ニ其ノ關係ガ
ゴザイマス、國民學校兒童數ハ最近ノ
國勢調査期日現在ニ於ケル國民學校
ノ在學兒童數ト云フ條文ガゴザイマ
ス、ソレデ現在デハ十五年ノ國勢調査
ノ、十五年ニ國勢調査ガアリマシタ、
其ノ際ニ於ケル國民學校ノ兒童數ト云
フモノヲ取上ゲテ居リマスガ、御話
ノ通り、全國平均ト、ソレカラ當該團
體ノ率トヲ比較致シマシテ、全國平均
ヨリモ多イ率ノ團體ニ付キマシテハ、
其ノ率ニ其ノ團體ノ兒童數ヲ掛ケタモ
ノヲ計算ノ基礎ニ置イテ居ル譯デアリ
マス

○橋本辰二郎君 此ノ十倍ト云フコト
ニ御定メニナリマシタ根據ハ何處ニア
ルノデアリマスカ

○政府委員(大野連治君) 大體國民學
校兒童一人當リノ經費ガ下ノ位掛ルカ
ト云フコトヲ計算致シタノデアリマス
ガ、サウ致シマスト、現在デハ國民學
校ノ兒童數一人ニ付キマシテ十五、六
圓見當ニナツテ居ルノデハナカラウカ
ト思ツテ居リマス、ソコデ第二種配付
額ニ於キマシテ、人口ガ一人殖エルト
云フコトハ、結局一圓三四十錢程度配
付額ガ増サレルト云フ關係ニ相成ルノ
デアリマス、十倍サレマス結果ハ、一
大體其ノ殖エタ國民學校兒童數ガ、一
般ノ全國ノ標準ヨリハ餘計兒童數ノ持

ツテ居ル團體ニ付キマシテハ、其ノ餘
計居ルガ爲ニ必要トスル所ノ經費ノ全
部ヲ、第二種配付額ヲ補ヒテ附ケテ居
ルト云フ關係デゴザイマス

○橋本辰二郎君 私人大臣ニ御伺ヒ致
シマスガ、市民稅ヲ五割増額セラレ
マシタ、從來、公債ノ町會ノ割當ト云
フモノハ、主トシテ此ノ市民稅ヲ標準
トシテ、其ノ振割ヲ定メラレタヤウニ
聞イテ居リマス、處ガ、今回市民稅ヲ
五割増額セラレマシタ結果ト致シマシ
テ、二十年度ハ十九年度ヨリモ公債ノ
割當ヲ約五割増額スルト云フコトニ
ナリハシナイカト私ハ考ヘマスルガ、
其ノ點ハ如何デゴザイマセウカ

○國務大臣(大達茂雄君) 今御話ニナ
リマシタ通り、從來市町村市民稅ト云フ
モノガ隣組貯金、其ノ他公債ノ割當等
ノ標準ニ使ハレテ居リマス實情ハアリ
マス、是ハ必ズシモサウシナケレバナ
ラスト云フコトハナイノデアリマス
ガ、丁度市町村市民稅ガ手頃ノ標準ダト
云フコトデ、貯蓄、公債ノ割當等ノ恰
好ノ標準ニ使ハレテ居ルノデアリマ
ス、唯實情ヲ申シマスト云フト、今日
ノ實際ノ貯蓄公債買入ノ能力ト云フモ
ノト、市町村市民稅ノ賦課額ト云フモ
ノハ、非常ナ勢ヒデ、各個人ノ經濟狀態
モ非常ニ急激ニ變化シテ居リマス關係
上、釣合ハナイ點ガアリマスノデ、其
處ニマア色々不都合ノ點ガアリ、實際
ノ消化能力ト不釣合ヲ生ジテ問題ガ起
ツテ居ルヤウデアリマス、之ニ付キマ
シテハ矢張り市町村ニ於キマシテ必ズ
シモ町會隣組等ニ於キマシテ、市町村
市民稅ニ依ラズニ實際ノ能力ニ應ジテ
貯金ノ割當ヲスルト云フヤウナ措置ヲ
講ジテ居ル所モ多クアルヤウデアリマ
スガ、實情ハ左様ナコトガアツタと思

ヒマス、是等ノ點ニ付キマシテハ餘リ
實際ト非常ニ掛ケ違ツタ貯蓄、或ハ公
債ノ買入ト云フモノガ強要サレナイヤ
ウニ十分注意シテ參リタイと思フノデ
アリマス、今御尋ニナリマシタ市町村
市民稅ノ方ガ五割増率ニナツタカラ、公
債ノ割當ガ五割ソレニ伴ツテ増スト云
フコトハナラヌカト思フノデアリマス、
公債ノ消化額全體ノ貯蓄目標ト云フモ
ノハ、別途ノ關係デ大藏省ニ於テ全國
ノ總額ヲ決メラレルノデアリマスカ
ラ、總額ノ「トータル」ノ關係ハ別ノ關
係デ決マリマスカラ、市町村市民稅ガ五
割増ニナツタカラト云ツテ、公債或ハ
貯金ノ目標ガソレダケ上ツテ行クト云
フコトハナラヌカト思ツテ居リマ
ス

○橋本辰二郎君 併シナガラ二十年
度ニ於ケル公債ノ募集額ハ六百億、前年
ハ四百億、丁度五割増シテ居ル、處ガ
市民稅モ丁度五割増シテ居ル、是ハド
ウモ好ク照應シテ居ル、是ハ偶然ノ現
レデアリマスカ、又ハ公債ノ増發ニ照應
シテ、之ヲ御定メニナツタノデアリ
マセウカ、サウ云フ疑ガアリマスノデ
スガ

○國務大臣(大達茂雄君) 全ク偶然
デアリマシテ、ノミナラズ先程申上ゲマ
シタヤウニ、市民稅市町村市民稅ダケ
ヲ標準ニシテ、貯蓄ノ割當ヲスルト云
フコトハ非常ニ無理ガアリマス、ソレ
モ實情ニ即シテ餘リ無理ノ掛カラスヤ
ウニ致シタイと思ヒマス

○委員(伯爵林博太郎君) 地方稅法
及地方分與稅法中改正法律案ニ付キマ
シテノ御質問ハ、大體此ノ邊テ終了シ
タモノト認メマシテ宜シウゴザイマス
カ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○委員(伯爵林博太郎君) 御異議ナ
イモノト認メマス

○政府委員(大野連治君) 市町村市民稅
ノ五大都市分ノ増收見込額ニ付キマシ
テ、先程御尋ガゴザイマシタガ、計算
致シマシタ結果、約七百三十萬圓ト云
フ數字ガ出テ居リマス

○委員(伯爵林博太郎君) 左様致シ
マスレバ、此ノ次ノ委員會ハ、所得稅及
地方稅兩方デアリマスガ、私ノ見込ト
致シマシテハ、六日ノ午後一時半ニ開會
ヲ致シマシテ、残りマシタ質問ガアレ
バ御諮リシテヤツテモ宜シウゴザイマ
スガ、大體討論ニ入りタイと思ヒマ
ス、御異議ガナケレバ、大體サウ云フ
ヤウナ運ビニ致ス積リデアリマス、本
日ハ之デ散會致シマス

午後零時二分散會
出席者左ノ如シ

委員 伯爵林 博太郎君
副委員長 男爵稻田 昌植君
委員 公爵德川 家正君
侯爵細川 護立君
子爵松平 乘統君
子爵西尾 忠方君
子爵梅園 篤彦君
子爵安藤 信昭君
子爵本多 忠晃君
下條 康麿君
内田 重成君
長 世吉君
男爵松平外與麿君
男爵島津 忠彦君
男爵 英雄君
澤田 牛麿君
井坂 孝君
正力松太郎君
橋本辰二郎君
佐々木長治君

國務大臣 大達 茂雄君
內務大臣 灘尾 弘吉君
政府委員 內務書記官 大野 連治君
內務書記官 田中 豐君
大藏省主稅局長 平田 敬一郎君
大藏書記官

昭和二十年二月九日印刷

昭和二十年二月十日發行

貴族院事務局

印刷者 印刷局